日本災害看護学会先遣隊　令和５年５月石川県能登地方を震源とする地震活動報告

2023 年 5 月 6 日(土)

活動隊員：花房八智代、佐藤大介、作川真悟

１．活動日時

令和 5 年 5 月 6 日(土)5:00-20:30

２．活動場所

石川県珠洲市

３．被害状況

5 月 5 日 14 時 42 分石川県能登地方に M6.5 の地震が発生した。震度 6 強の揺れを珠洲市で観測、震度 5 強を輪島市で観測した。また、午後 10 時頃能登地方を震源とするM5.9 の地震が発生し、震度 5 強を珠洲市で観測した。能登地方では地震が相次いでおり、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 5 日だけで 43 回である。能登地方では 2020 年以降地震が活発化している。6 日午後 5 時には土砂災害警戒区域の約 740 世帯 1630 人に避難指示が発令された。

（5/6 石川県における 14:00 現在、消防庁災害対策本部資料第 9 報）

・人的被害：死者 1 名、重傷 2 名、軽傷 26 名

・住宅被害：一部損壊 2 戸（未診断がほとんど）

４．活動の実際

5:00　福井出発

7:30　見附島視察、頂上の土砂崩れを確認。

7:38　国道 249 号線を北上、飯田町、宝立町鵜飼地区、上戸町北方地区周辺の被害状況を視察。老朽化した家屋の倒壊、ブロック塀の倒壊、外壁崩れが目立つ。

8:00　珠洲市健康増進センターを訪問。保健師の方に挨拶し医療ニーズ、避難所開設情報を聞く。被害は正院町、蛸島町に集中しており、各町の公民館と小学校が避難所として開設している。余震が継続していることや、被害状況が確認されていない状況のため外部の支援の受け入れは見合わせているとの事であった。

8:30　飯田町視察、飯田小学校(避難所)を訪問するが担当者不在であった。

8:40　正院本町周辺の被害状況視察。被害家屋多数あり、ガラス破片や雨戸が道路脇に散乱。正院公民館(避難所)訪問。医療ニーズ確認したところ、昨夜から延べ 7～80 名の住民が避難されているが特に体調不良者などはいないとのこと。現時点では 10 名前後の避難者（高齢者）で、ほとんどが片付けに帰られている。公民館建物は、地震により正面のドアが外れ、ブルーシートで補修してある状態であった。周辺を視察しているため、困ったことなどあればすぐに連絡いただくよう伝えた。

9:18　正院小学校(避難所)訪問。避難所は昨夜に開設され、夜間は車中泊者が数名おられたが、現在は 0 名。体育館は体操用のマットが数枚敷いてある状況であった。公民館が先に開設されたため、小学校にはほとんど来られていないとのことであった。

9:40　蛸島公民館(避難所)訪問。避難者は 1 人。市担当者に挨拶し、医療ニーズの確認を行なった。現時点では支援は不要とのことであった。

9:47　蛸島小学校(避難所)を訪問するが、開設されていたが担当者不在であった。避難者もなし。近隣住民から被害状況や健康状況についてお話を聞き、血圧チェック等を行なった。蛸島周辺は断水や停電等はなく、被害は正院町が酷いとのことであった。また、昨年の地震とは違って、立っていられないほど強く揺れ、建物に関しては 2 回目の揺れでかなり大きく被害が出たと話されていた。夜間は余震が続きあまり眠れていないとのことであった。

10:30　珠洲市社会福祉協議会訪問。事務局長から被害状況、ニーズ等の有無について話を伺った。今後 VC は開設する見込みであるが、建物診断がこれから予定されており、その状況で最終判断するため、開設までにもうしばらく時間がかかりそうとのことであった。外部の受け入れ態勢も整っていないため、現時点では外部支援ニーズはないとのことであった。

10:50　若山公民館(避難所)訪問。夜間は 11 名避難されていたが現在は 0 名。防災無線で給水車の案内あり。市内の断水はないが、水道管の漏水により茶色に濁っている地域が多数あるため、飲水用として給水車を派遣している。

11:40　正院公民館(避難所)に戻り、周辺の被害状況を徒歩で視察。マスコミ多数。倒壊家屋多く、危険な状況。診断士が数名巡回中。

12:30　三崎町高波、寺家、狼煙町周辺視察。道路の歪みや山道の倒木等が多い。輪島方面に抜ける県道 28 号線は狼煙町で通行止めであった。屋根瓦の損壊家屋が多いが、ブルーシート等での補修はほとんどされていない状況。近隣の公民館でブルーシートが配布されていた。

17:00　珠洲市健康増進センターにて保健医療福祉調整会議(珠洲生活サポート部会)に参加。珠洲市保健所をはじめ、福祉課、社協、近隣病院、外部支援団体関係者が被害状況や課題について情報共有を行なった。
避難所の環境について、不足物品(消毒、毛布、ペーパータオル、非常食、段ボールベッド、パーテーション)に対し、県へ依頼することを確認した。また、コロナ対策のための環境整備の徹底が重要であること、避難所になっている公民館の耐震に関わる使用継続の判断の必要性、今後増加が見込まれる要配慮避難者の健康ニーズの把握の重要性について確認した。
決定事項として、保健師と福祉課職員のペアで避難所(約 20 ヶ所)を巡回し医療ニーズの高い住民をピックアップする。支援物資については優先順位を決定しながら配布する。県を含む調整会議を明日 9 時に開催し情報共有と支援の方向性を決定することを確認した。

18:30　調整会議終了

20:30　輪島市ホテル到着
（土砂崩れによる国道通行止めにより迂回ルートで移動、かなり雨が強くなる。）

5．考察

1）被害の特徴

石川県珠洲市では、令和 5 年 5 月 5 日 14 時 42 分に震度 6 強、同日 21 時 58 分に震度 5 強と 2 度に渡る強い揺れを観測した。珠洲市全域に被害が発生しているが、特に正院地区と蛸島町地区では、家屋の倒壊や瓦の崩落、ブロック塀の倒壊などの被害が多く見られていた。一方で、被害のあった住宅は、地震発生前からすでに老朽化している住宅がほとんどであり、比較的築年数の新しい住宅では、外から

の被害は確認されていない。

先遣隊は 6 日の早朝より活動しているが、午後より断続的に降雨が続いており、被災者宅の居住内への雨漏り等の危険も考えられる。余震の可能性も高く家屋の倒壊の危険も考えられるため、特に夜間などは指定避難所への早めの避難も考慮して呼びかけ等行う必要もある。

２）ライフライン

電　　気：停電は局所であるが速やかに復旧されている。

水　　道：三崎町細谷地区や若山地区などの一部の地域で断水が続いている。多数の家庭で漏水により水道が濁っており給水車が巡回している。

通　　信：ほぼ影響ないが、山間部など元々電波の悪い場所がある。

インフラ：道路のひび割れや陥没がところどころに見られるが、流通は維持されている。今後の雨の影響により、土砂崩れや倒木などで通行止めになる恐れがある。

３）医療ニーズと連携体制

午前中の視察では、外部の医療支援は入っていなかったが、珠洲生活サポート部会が組織化されたことで、保健医療福祉関係者の協働体制が整った。内部リソースの重要性から、地元保健師のサポートが重要であり、外部にできることは外部で支援する必要がある。特に、在宅避難者の把握がまだできておらず、要配慮者の独居など取り残されている可能性も考えられることから、なるべく早い段階で全戸訪問などニーズ確認をすることが重要であると考える。また、保健師をサポートする看護のマンパワーが不足しており、看護協会の災害支援ナース要請も考慮が必要と考える。近隣病院の救急対応は問題ないようであったが、今後は不眠やストレスなどによる健康障害が予測されるため、中長期的な観察とサポートが必要である。

６．課題

１）在宅避難者の把握と医療ニーズの高い被災者の調査。

２）地元保健師の平時業務をサポートするためのマンパワーの確保。

３）二次被害を予防するためのチーム連携（専門職の役割分担）

７．参考写真

須須神社　鳥居崩壊

正院小学校体育館

蛸島町　県道287号線　家屋倒壊

ブロック塀　一部崩壊

道路　陥没及び隆起

正院公民館　入り口　ドアが外れている

健康チェックを行う隊員